

特集：アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育(TAG)プログラム

TAGパイロットプログラムに参加して —3/14の旅行記—

岩本 祥明（筑波大学 生物学類 4年）

3月14日は朝5時に起床。6時にホテルを出発し、空港へ。ホテルの人が空港まで車で運んでくれたが、本来1時間かかるらしい距離をたった20分で移動してしまったので、道中車が跳ねるなどスリル満点だった。早朝にしても、昼間にしても、マレーシアは道が広い分、日本と比べてスピードを出す印象を受けた。

空港から小さな飛行機に乗って1時間ほど、無事にペナン島へ到着。空港までUSM(マレーシア科学大学)の長尾先生が迎えに来てくださった。荷物を一度ホテルへ預けてから、USMを訪問。到着してすぐ学内を軽く探索するも、乾燥しすぎていて、探していた変形菌という生物の気配は全然なかった。雨季なのに雨がほとんど降らなかったため学内に水を求めてコブラが集まっている、と聞いていたため、おっかなびっくりしながらの学内探索だった。

探索の後は出川先生がUSMで講義をした。菌類の総説から、最近出川先生が熱中している昆虫腸内菌まで。USMの学生も、我々筑波の学生も、みんながみんな話に引き込まれる、楽しく、熱い講義だった。



熱く講義する出川先生



公式昼食会

講義が終わると公式昼食会。メニューはチキンカレー、ミートソースのようなもの、魚のフライ、キノコとブロッコリーの炒め物。どれも非常に美味しかった。特にチキンカレーは辛さが控えめで食べやすかった。長尾先生の研究室の学生2人と、菌類の話、日本とマレーシアでの大学生生活の話などで盛り上がり、楽しい昼食会になった。

昼食を済ませたら、図書館や会館など、大学内を案内してもらった。とにかく広大なキャンパスのため、移動に車を用いたほどだ。丘や谷があり、キャノンボールの木やドリアンの木といった、独特な植物が見られた。ちょうどイスラム教の礼拝の時間であったため、案内が終わって帰る途中、礼拝に大学のモスクへ来ていた人の帰宅渋滞ができていたのが、とても印象深く、微笑ましかった。

午後はマングローブ林へ行った。行く途中の道から、バナナ園のような、日本では見ることができないような景色になって、ど

んどん期待が膨らんでいった。川沿いを車で進んでいくと、川には1mを超えそうな巨大なトカゲがいるのを見ることができた。マングローブ林では、まず目にサギやサルがいて、動物の多さを実感。川沿いにはトビハゼや巻貝、林の中ではバッタやハチなどの昆虫がいた。



マングローブ林の風景



トビハゼ

マングローブ林の帰りにアブラヤシの林へ。アブラヤシはその名の通り実から油をとることができる。とった油は石鹸や食用油として利用され、マレーシアでは特に栽培が盛んな植物らしい。アブラヤシを身近で見たときに驚いたのは圧倒的な大きさだった。葉っぱ1枚を一人で運ぶのが困難なほど大きかった。



夕食は現地の人が利用するレストラン。入口でご飯にのせる具を選ぶシステムで、チキンのカレー煮、イカフライ、キャベツの炒め物、揚げエビを選んだ。お店の人のチョイスでかけられたカレーソースが非常に辛く、美味しかったけれど、食べきるのに苦労した。

夕食後はUSMの実験室へ戻り、サンプル処理。今回同行した一年生と共に、採取した葉や土壌などを寒天培地に接種する、カビの観察のための準備をした。

朝5時から活動をしていたため、体力的に苛酷ではあったけれど、特にイベントが多く、とても濃い経験ができた一日だった。

Communicated by Yosuke Degawa, Received April 18, 2014.